

2005.10.20(木)

# アナログ立県・群馬

## 振興の波盛り上がる

6月、群馬県のアナログ技術人材育成プロジェクトが、経済産業省の「産学連携製造中核人材育成事業」に採択された。2年間で約1億円の助成を受け、県内の半導体ユーザー企業の中堅設計者を対象とした無料講座を開設する。理論と実学に精通した人材育成を目指す内容だ。

採用の決め手となったのは、群馬県を拠点にアナログ技術者育成に取り組む民間非営利団体（NPO）「アナログ技術ネットワーク」（群馬県伊勢崎市、堀江昇理事長）の存在があったからだ。関係者は口をそろえて、

# 大手OBが理論と実学

設計できるデジタル回路に対し、人手によるモノづくりを必要とする。それだけに経験に基づく技能が必要で、人材育成に時間がかかる。それにもかかわらず、「優秀な技能者の早期退職や海外流出で、人材育成も先端技術開発もままならない」業のアナログ技術者OB（堀江理事長）のが現状が中心となり、03年7月

で、人材育成も先端技術開発もままならない」業のアナログ技術者OB（堀江理事長）のが現状が中心となり、03年7月



設計できるデジタル回路に対し、人手によるモノづくりを必要とする。それだけに経験に基づく技能が必要で、人材育成に時間がかかる。それにもかかわらず、「優秀な技能者の早期退職や海外流出で、人材育成も先端技術開発もままならない」業のアナログ技術者OB（堀江理事長）のが現状が中心となり、03年7月

にアナログ技術の振興には人材育成が最重要課題（日本サーボ桐生工場）

実際の講座は、12月に始まる。事業期間の2年間で「企業に真に役立つ内容を」に「同じことを目指し、講座に磨きをかける。講座終了後は群馬大学が主導し、人材育成事業を継続していく方針だ。

群馬が旗振り役となり、

同NPOは、群馬県のアナログ人材育成プロジェクトでも、カリキュラム作成段階から全面協力した。「実績のあるNPOの参画が、経産省の目で、群馬県のアナログ技術振興は成果を上げつつある。

ただ県内の大手企業と中小企業が、最先端のアナログ技術を駆使して高付加価値製品を共同開発するといった理想型の実現にはまだ遠く、「これからが本番」と関係者は強調する。

復活の原動力

アナログ技術は衰退傾向にある県内電気機器産業復活の原動力としても期待されている。成果が表れてきた今、振興基盤強化と、次のステップを見据えた取り組みが欠かせない。

（群馬・後藤信之）